

慰問をしてくれました。

七月二十五日、大竹に上陸、旧大竹海兵团兵舎に宿泊、翌二十六日、復員完結、召集解除になり、全員大竹駅より郷里へ帰還しました。

第四十一飛行場中隊は千葉県柏飛行場で編成され、濠北派遣隊第一五三六八部隊として大半は第七飛行師団の指揮下で交戦もありましたが、幸い戦傷・戦死者皆無で、広島県大竹港に上陸、解散するまで、軍隊としての編成を堅持した稀な精鋭部隊でした。

敗戦を貴重な教訓として、焼け跡より祖国は見事に復興し、平和を愛する日本となりました。その礎となられた尊い御魂のご冥福を祈念すると共に、波濤千里、万里を越えてきた命の尊さを大切に、氣力を充実、健康第一にして頑張ってくださいと思います。

南方航空戦線の思い出

福岡県 石橋 茂

大正十一（一九二二）年五月、総勢九人の農家の家に生まれました。当時の家族は、祖父母、父母、それに子供たち五人、長男は私より遅い徴集でしたが、早く死にました。それで兄弟の中で私一人が男で、約一町八反の田畑を耕作していました。

徴兵検査は昭和十七（一九四二）年十月、城島町（久留米市）で行われ、第一乙種で、昭和十七年十二月に宮崎県延岡市の第一〇一部隊、航空隊の航空兵として召集されました。私は自動車の運転をしておりましたので、その関係で航空隊だったと思います。航空隊では、爆撃弾の装填、エンジンの始動など、自動車運転の経験を生かす部署が多くありました。

三カ月間の初年兵教育を受けて昭和十八年四月

ごろ、大分県由布院の陽出台に全国から集結した約二百人が四カ月ほど訓練を受け、門司より乗船、台湾に向かって航行しました。一週間ほどして高雄に寄港、高雄を出て二日目に前を行く貨物船が米潜水艦攻撃を受け、我が貨物船も逃げてサイゴンに入りました。

結局、敵潜水艦を避けつつシンガポールに行き、第二十四飛行場大隊に配属となりました。ここには二千メートルくらいの小さい滑走路がある飛行場があり、三、四カ月くらい勤務しました。ここで初めて水洗便所やベットなる寝台などモダンな生活を体験し、吃驚しました。

次いでジャワに行き第二十八飛行場中隊三島隊配属となり、昭和十八年、十九年は、ジャカルタ、バンドン、マランなどの飛行場での任務につきました。

当時の飛行場部隊は、B 29の空襲やグラマンの爆撃により、荒らされ、破壊された建物、滑走路などの修理や穴埋め作業が主で、夏に、シンガポ

ール経由でマレー半島に移動、さらにビルマのイポ飛行場に行きました。

六カ月いたのですが、我が軍の飛行機は沖縄に行って皆無、ここで終戦となりました。

昭和二十一年七月二日、名古屋港に復員、帰国しました。階級は兵長でした。